

富士宮絆とどけ隊

富士宮の有志が集い、「風化させない」をモットーに、長期的スパンで様々な支援活動を行っています。定期的に被災地への支援金や支援物資を自らの足で届けています。

ここでやりました



福島県
宮城県

こんなことをしてきました

皆様よりご賛同頂きました支援物資を3回に渡り、合計、車両16台総勢36名で被災地へ。福島県いわき市、宮城県宮城郡、宮城県東松島市、牡鹿半島、宮城県石巻市の計7箇所へ支援物資をお届けいたしました。

活動写真



こんなにもたくさんの物資が集まりました！



ご支援頂いた物資の積み込み作業



被災地へ輸送中



被災地での荷降ろし作業

災害救援に行って感じたこと

まだまだ物資供給が行き渡らず、難民化している被災者は数え切れない程。何も壊れてない家でも飢えている人がいる。しかも、現地では未だに安否すら把握しきれていない事も事実。そうした混乱の中での物資輸送。順調に事が運ぶ訳ではありませんでした。訪問先数箇所の受け取り拒否。落ち込んだ気持ちでやっと探し当てた公民館。そこで年配者皆さんの暖かい笑顔と物資を降ろしたあと「いつまでも手を振ってくれたお見送り…」皆が「本当に来て良かった。」と思えた短い時間でした。

現在、国道は整備が進み県道も徐々に整備されはじめてきたが、市道はまだまだな状況。「天災は突然襲ってくる!」とは言いながらも、仙台近郊は何もかも津波に飲み込まれたあとの荒野の惨劇。「ココは本当に日本なのか?」と思ってしまう現実。

「物資を待っているはず!」と聞きつけて向かった先の小学校は全滅。行く手を阻むガレ木と土砂。掲示板にわが子を捜し名前を書く母の姿。国道に鎮座した船が道を塞ぎ、途方にくれる被災者たち。メディア報道とは全く違う「悲惨な現場」以外の言葉はありませんでした。

唯一の救い、それは子ども達の元気な姿でした。とにかく元気な子ども達の間では、サッカーボールが大人気。

何でもいい。とにかく一日も早い復興と「元の幸せな日々」が被災地に戻る事を祈ります。

もし大地震が起きたら！？ 富士宮市民に伝えたいこと

家族で震災についてよく話し合うこと！

携帯電話は繋がらないことを前提にいかに連絡を取り合うのか？

「フェイスブック」や「ツイッター」の活用を考えたり、集合場所を決めておいたりすることも重要。

また、家族を最低3日間守れるくらいの食料を確保しておくことは必須。

生きる上で重要となる水をいかに確保していくのか？という事も考えなければなりません。雨水を溜める物を用意しておけば、洗濯に使用することも出来ます。

震災への備えとして、もっとも重要なことは、「個人個人が本気でしっかり考え、向き合っていくこと」だと、被災地への支援を通して痛感しました。